
暗くなったら・・・

雪笹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗くなったら・・・

【コード】

N98350

【作者名】

雪笹

【あらすじ】

ある男が買い物に出かけたと・・・

ある男の話

その日、男は街へ買い物に出かけていた。

まず最初に男はデパートの服屋へ行った。服屋を出た後、エスカレーターで下に降りているとき、のぼりのほうに乗っていた女性が自分のほうを見ると、何かまずいものを見たような感じの顔をして、目をそらした。

男は変に思ったが、特に気にせず買い物続けることにした。

次に男は本屋に行った。

本屋には女性店員が一人いるだけで、その女性店員はかがんで本の整理をしていた。

女性店員は男のほうを見ると、「いらっしやいませ」と言ったが、すぐに何かまずいものを見たような顔をして、目をそらしてしまった。

男はまたしてもそのような反応をされたことに少し驚いたが、気にしすぎだと思い、本屋を後にした。

次に男が商店街を歩いていいるとき、女友達を見かけて声をかけたが、女友達は「ごめん、ちょっと急いでるの」というと、立ち去ってしまった。

その後、男は家に帰ると今日の出来事について考えをめぐらした。

なぜ、あんな顔をされたのだろうか。

その答えは、家の姿鏡の前に立ったときにわかった。

男のジーンズのチャックが開いたままだった。

男は心配していたのが馬鹿らしくて仕方がなかった。そりゃそうだ、チャックが開いたままだったからあんな顔をされたのだ。

よく考えれば、変な顔をしたのは女性だけだ。

それに、エスカレーターるときは自分ぐんだりで女性はのぼりだったので、チャックに目がいきやすい。本屋でも女性はかがんで作業していたから同じく視線が下になっていた。

あれ？でもおかしいな。女友達に会ったときは普通に歩いていた。

チャックが開いているのを確認するには、普通に見ただけでは上に着ていたシャツに隠れてわからないのに・・・

そのとき、携帯電話の着信音が鳴った。

なぜかそのとき、男は寒気がした。

電話は女友達からだった。

電話の内容は・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9835o/>

暗くなったら・・・

2010年11月18日05時25分発行